

Pre-Phase A におけるコンセプト成熟度チェックリスト

2017年9月1日

研究総主幹 満田, PD 久保田, PO 室長 三保

1. Pre-Phase A 内の phase あるいは段階の定義

Pre-Phase A (概念検討, concept study phase)



2. Pre-phase A 内の sub phase の終了時に満たすべき色定義

青 ●●●●	黄 ●●●●	(空白)
要求を満たすこと	要求達成のために検討すべき内容が認識されていること	条件としない

次節の各項目に対して上記を満たすことを, concept study の成熟度に関する各 sub phase 終了条件とする。

concept study の成熟度の他に, 技術的成熟度も評価対象とする。

3. ミッションコンセプト成熟度チェックリスト

「上流」というコラムは, 項目の間の代表的な相関関係を表している。すなわち, 各項目の検討を開始するためには「上流」に記載されている項目の検討が終了している必要がある。

4. 構成

カテゴリ番号	カテゴリ名	カテゴリ番号	カテゴリ名
1	科学目的	11	搭載機器リスト
2	科学データ	12	システムズエンジニアリング
3	ミッションアーキテクチャー	13	打ち上げ手段
4	システムアーキテクチャー	14	planetary protection
5	ミッション機器アーキテクチャー	15	検証計画
6	ミッション運用アーキテクチャー	16	調達マネジメント
7	技術リスクマネジメント計画	17	実施体制
8	技術マージン維持計画	18	スケジュール
9	技術要素開発	19	WBS
10	技術要素ヘリテージ	20	ミッション保証
		21	コスト

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-				上流								プロジェクトによる照合結果		
					1a	1b	2a										信号	照合結果	対応する文書
38	システムアーキテクチャー	4 - 5 - 3	5	サブシステム設計仕様書第一案の設計パラメータのマーヅンの考え方が明確になっていること。				36	73	74	76								
39	システムアーキテクチャー	4 - 5 - 4	5	宇宙機システムのサブシステムブロックダイアグラムレベルでの、軌道上故障に対する冗長性・代替手段の考え方が整理されていること。				36	38										
40	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 2 - 1	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現する方法・技術を1文で記述すること。	青			16											
41	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 2 - 2	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現する方法・技術について、他の技術、および類似技術との比較を行うこと。	青			16											
42	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 3 - 1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現する方法・技術について、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討し、科学目的の達成度とコスト・リスク・programaticな課題間の関係を把握すること。	青			19	74	3	92								
43	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 3 - 2	3	検討結果に基づいて、科学目的の達成度とコスト・リスク・programaticな課題間のバランスにたつて、実験・観測・分析などを実現する方法と技術について適切にベースラインを設定していること。	黄	青		33	42	93									
44	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 4 - 1	4	ベースラインとなるミッション機器アーキテクチャーについて、機械的コンフィギュレーション図、電気的およびコミュニケーションのブロックダイアグラム図を作成していること。		青		43	95										
45	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 4 - 2	4	ミッション機器アーキテクチャーについて最低限達成しなければならぬ科学outputを達成する可能な Descope/fallback plan を有していること。		青		44	25	7									
46	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 1	5	ミッション機器サブシステムについて、上流設計を実施し、開発仕様書を満たす設計仕様書の第一案を、第三者評価可能な形で策定する。				115											
47	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 2	5	ミッション機器サブシステムのコスト評価が文書化されていること。				46											
48	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 3	5	ミッション機器サブシステムの宇宙機への搭載位置/方法の第一案が策定されている。				46	34	36									
49	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 4	5	技術要素の基本開発計画に基づいて、ミッション機器サブシステムの開発計画を策定する。開発モデルフィロソフィーを明確化する。				82	108										
50	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 5	5	ミッションデータの量・質・連続性・同時性の要求を明確にすること。				11											
51	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 6	5	ミッション機器サブシステム設計仕様書第一案の設計パラメータのマーヅンの考え方が明確になっていること。				46	73	74	76								
52	ミッション機器アーキテクチャー	5 - 5 - 7	5	ミッション機器サブシステムのブロックダイアグラムレベルでの、軌道上故障に対する冗長性・代替手段の考え方が整理されていること。				46	51										
53	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 2 - 1	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現するために必要なミッション運用方針案が定義されていること	青			40											
54	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 3 - 1	3	ミッション運用方針案がミッションの科学目的からどのように要請されているか明確であること。	青			53											
55	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 3 - 2	3	コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数のミッション運用方針案を検討し、科学目的の達成度との関係を定量化すること。	黄	青		54	74	92									

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流							プロジェクトによる照合結果			
					1a	1b	2a										信号	照合結果
56	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 3 - 3	3	搭載機器と地上系との機能分担を検討すべき項目が明確化されていること。	青			41	53									
57	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 3 - 4	3	新規に必要な地上系の機能・性能が明確化されていること。	黄	青		55										
58	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 4 - 1	4	ミッション運用方針のベースラインとして運用シナリオが定義され、運用系・地上系アーキテクチャーとして、コンフィギュレーション図・ブロックダイアグラム図を作成していること。			青	36	56	57	93	95						
59	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 5 - 1	5	運用系・地上系を含むミッション運用システムの所掌範囲が明確化され、必要な設備、ブロックダイアグラム図ともにサイエンスコミュニティとのインターフェースが明確化されている。				14	58									
60	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 5 - 2	5	ミッション運用の複雑さにふさわしいミッション運用システムの規模となっている。				58	59									
61	ミッション運用アーキテクチャー	6 - 5 - 3	5	ミッション運用中にクリティカルイベントがある場合は、そのイベント時のデータ取得の方針が文書化されていること。				58										
62	技術リスクマネジメント計画	7 - 2 - 1	2	ミッションの科学目的達成のリスクを、実施する実験・観測・分析の獲得すべき性能、それを実現する方法・技術、宇宙機（衛星・探査機）システム、運用コンセプト・地上系のそれぞれの観点から検討し、リスク要因を見出すこと。	青			16	18	30	41	53						
63	技術リスクマネジメント計画	7 - 2 - 2	2	上記に基づいて、ミッションの主要なリスク要因を認識すること。	青			62										
64	技術リスクマネジメント計画	7 - 3 - 1	3	コスト、リスク、programaticな課題が異なるミッション実施方法として検討した複数のミッションアーキテクチャー、複数のシステムアーキテクチャー、複数のミッション機器アーキテクチャー、複数のミッション運用アーキテクチャーについてリスクを比較すること。	黄	青		42										
65	技術リスクマネジメント計画	7 - 3 - 2	3	ミッションの主要なリスク要因について、mitigation 戦略を見出すこと。	黄	青		63	64	4	11	19	33	42	55	92		
66	技術リスクマネジメント計画	7 - 4 - 1	4	リスク要因がリスト化されていること。		黄	青	65										
67	技術リスクマネジメント計画	7 - 4 - 2	4	JMR-011の付録3に従って、リスク要因の評価を実施し、開発方針とmitigation計画を立案すること。		黄	青	65	66									
68	技術リスクマネジメント計画	7 - 5 - 1	5	リスクのmitigation計画がbaseline化していること。				67										
69	技術リスクマネジメント計画	7 - 5 - 2	5	リスクmitigation 計画のbaselineを実施した場合の、リスク発生確率の低減度合いを定量的に見積もっていること。				68										
70	技術リスクマネジメント計画	7 - 5 - 3	5	リスクmitigation計画を踏まえて、モデルフィロソフィーを含む開発計画が設定されていること。				82	84	68								
71	技術リスクマネジメント計画	7 - 5 - 4	5	技術マージン、コスト予備費の確保方針、さらに、フェーズアップに従ってリリースする方針が決定していること。				77	149	70								
72	技術マージン維持計画	8 - 2 - 1	2	リスク要因の検討において、技術的不確定性の大きな要素をリスト化する	青			62										
73	技術マージン維持計画	8 - 2 - 2	2	主要リスク、技術的不確定性の大きな要素について、十分なマージンを設定すること。	青			63	72									
74	技術マージン維持計画	8 - 3 - 1	3	上記(8-2-2)以外の項目については、JAXA標準のマージン設定があれば、それをマージンとすること。	青			73										

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流						プロジェクトによる照合結果			
					1a	1b	2a								信号	照合結果	対応する文書
75	技術マージン維持計画	8 - 3 - 2	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析から得られる成果を、不確定性を考慮したworst caseとbest caseそれぞれについて示すこと。	黄	青		43	74								
76	技術マージン維持計画	8 - 4 - 1	4	ミッションの科学目的を達成するために維持すべき最重要なマージンを明確にすること。	黄	青		75									
77	技術マージン維持計画	8 - 5 - 1	5	マージンを確保するために必要な質量・電力などのリソースが定義されていること。				76									
78	技術マージン維持計画	8 - 5 - 2	5	マージンの状態が定期的に確認されている状態を作ること。				77									
79	技術要素開発	9 - 2 - 1	2	主要技術要素と、開発が必要な技術要素を同定する。	青			2	16	40	41	30	31				
80	技術要素開発	9 - 3 - 1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などについて、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討する際に、それぞれの場合の主要技術要素と開発が必要な技術要素を比較する。	黄	青		33	42	55	79						
81	技術要素開発	9 - 4 - 1	4	主要技術要素と、開発が必要な技術要素について、現在のTRL値の根拠を示すこと。	黄	黄	青	79	80								
82	技術要素開発	9 - 4 - 2	4	提案ミッションで実施する実験・観測・分析などのベースラインについて、開発が必要な技術要素の根拠ある基本開発計画が設定されていること。			青	6	44	80							
83	技術要素開発	9 - 4 - 3	4	上記の中で新規技術については、fall back optionを設定すること。			青	25	45	66							
84	技術要素開発	9 - 5 - 1	5	技術要素の開発計画の検討を終了し、プロジェクト全体の技術開発計画書の初版が制定されていること。				82	83								
85	技術要素ヘリテージ	10 - 2 - 1	2	既存技術を活用する場合、そのヘリテージの元となる開発・プロジェクトとそれの中の既存技術の使用境界条件・プロジェクトでの実施状況などを明確化する。	青			31	41	53	62						
86	技術要素ヘリテージ	10 - 3 - 1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などについて、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討する際に、それぞれの場合の既存技術の活用限界、リスク、利点を明確にし、比較する。	黄	青		33	42	55	79						
87	技術要素ヘリテージ	10 - 4 - 1	4	活用する既存技術要素がリスト化されていること。			青	6	44	86							
88	技術要素ヘリテージ	10 - 5 - 1	5	活用する既存技術要素の中で、設計に大きなインパクトのある要素について、現在の状態、入手性、技術文書の状態を確認する。				87									
89	搭載機器リスト	11 - 3 - 1	3	実施する実験・観測・分析などの実現方法と技術ベースラインにたつて、ミッション機器アーキテクチャを構成する要素について、質量見積もりを含むリストを作成する。	黄	青		43									
90	搭載機器リスト	11 - 4 - 1	4	ベースラインとなるシステムアーキテクチャー・ミッション機器アーキテクチャについて、質量見積もりを含む構成機器リストを作成する。			青	26									
91	搭載機器リスト	11 - 5 - 1	5	活用する既存技術要素がある場合には、既存品にあわせて構成機器リストを更新すること。				90	88								
92	システムズエンジニアリング	12 - 2 - 1	2	比較対象として検討すべき、コスト・リスク・programaticな課題が異なるミッション実現方法を複数考え、比較対象の第一次案として設定する。	青			41	2	18	53	62	63				
93	システムズエンジニアリング	12 - 3 - 1	3	科学目的の達成度とコスト・リスク・programaticな課題の間のバランスにたつて、複数のミッションアーキテクチャー、システムアーキテクチャー、ミッション機器アーキテクチャー、ミッション運用アーキテクチャーについて、優れている点、劣っている点を総合的に判断する。	黄	青		3	19	42	33	55	80	86	64	122	146
94	システムズエンジニアリング	12 - 3 - 2	3	5-3-2 ベースラインアーキテクチャーを構成するサブシステムの間の要求の依存関係を分析し同定すること。	黄	青		3	11	30	33	42	43	55			

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流										プロジェクトによる照合結果					
					1a	1b	2a														信号	照合結果	対応する文書
143	WBS	19 - 5 - 2	5	上記WBSにおいてパートナーの役割分担を示すこと。				117	123														
144	ミッション保証	20 - 5 - 1	5	識別されたリスクの程度に応じて、必要であれば、JAXAの安全・信頼性・品質保証要求のtailoring案を作成する。				67															
145	コスト	21 - 2 - 1	2	コストの規模を過去の類似ミッションから推定すること。	青			2	16	31	40	41	53										
146	コスト	21 - 3 - 1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などについて、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討し、コストと得られるサイエンス成果の関係を整理すること。	黄	青		4	19	42	55												
147	コスト	21 - 3 - 2	3	ミッション系のサブシステムレベルまでのコスト評価を行う。	黄	青		43	145	146													
148	コスト	21 - 4 - 1	4	ベースラインアーキテクチャのブロックダイアグラム、モデルフィロソフィー、技術開発計画、リスクマネジメント、検証計画に基づいて、最初のコスト見積もりを行う。過去の類似ミッションやリスクマネジメントに基づいたコストマージンを含むこと。			青	6	22	34	44	58	67	82	108								
149	コスト	21 - 4 - 2	4	コストリスク要素をサブシステム毎に同定すること。			青	5	21	33	44	58											
150	コスト	21 - 5 - 1	5	Phase Aの結果を反映したコスト見積もりを行う。宇宙機システムについては、複数のメーカーの見積もりを用いることで、2つ以上の独立な手段で行う。				148	149														

ISAS CMLチェックリスト (時間軸整理版; Version 2)

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流											
					1a	1b	2a												
1	科学目的	1 -1 -1	1	該当分野の科学（理学および工学）の大目的の中における提案ミッションの意義を1つの文で記述すること。	青														
15	ミッションアーキテクチャー	3 -1 -1	1	提案するミッションアーキテクチャー（ミッション意義を達成するために何をどのように獲得するか）の既存ミッション（開発中・対案中を含む）と異なる特徴を1つの文で記述すること。	青			1											
131	スケジュール	18 -1 -1	1	提案するミッション全体の大まかなスケジュールを示すこと。	青			1	15										
98	打ち上げ手段	13 -2 -1	2	候補となる打ち上げ手段が特定されており、その打ち上げ能力の概算値がわかっていること。	青														
132	スケジュール	18 -2 -1	2	めざす提案機会、打ち上げ機会が同定されている。	青			131	98										
2	科学目的	1 -2 -1	2	提案ミッションの意義を、過去のミッションや海外を含めた開発中あるいは検討中の関連するミッションと比較可能なレベルにフローダウンし、科学目的として記述すること。	青			1											
16	ミッションアーキテクチャー	3 -2 -1	2	ミッションの科学目的を達成するためにミッションが獲得するもの（例えば、実施する実験・観測・分析などで得るもの）と、その性能要求（品質、量など）を数値として与えること。	青			2											
17	ミッションアーキテクチャー	3 -2 -2	2	実施する実験・観測・分析などによって、科学目的が達成可能であることが、初歩的な計算・見積もりレベルでは示されていること。	青			16											
3	科学目的	1 -3 -1	3	提案ミッションで実施する実験・観測・分析などを、ミッションの科学目的との関係を明確にして記述すること。	青			16											
18	ミッションアーキテクチャー	3 -2 -3	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などが、どのような宇宙環境で実施されるかが認識されていること。	青			16											
103	planetary protection	14 -2 -1	2	Planetary protectionの要求があるかどうかを同定する。	青			2	16	18									
40	ミッション機器アーキテクチャー	5 -2 -1	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現する方法・技術を1文で記述すること。	青			16											
41	ミッション機器アーキテクチャー	5 -2 -2	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現する方法・技術について、他の技術、および類似技術との比較を行うこと。	青			16											
133	スケジュール	18 -3 -1	3	スケジュールの変化がサイエンス成果に与える影響、開発スケジュールの変動がミッション期間に与える影響、それぞれを評価している。	青			3	131	132	2	16	40	41					
10	科学データ	2 -2 -1	2	ミッションで獲得するデータ（テレメトリデータ、サンプルなど、以下ミッションデータ）の必要性がミッションの科学目的からどのように要請されているか明確であること。	青			16											

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流									
					1a	1b	2a										
30	システムアーキテクチャー	4 -2 -1	2	ミッションの科学目的を達成するために要請される宇宙機（衛星・探査機）システムへの設計パラメータ・性能要求がリスト化されていること。	青			16	10								
31	システムアーキテクチャー	4 -2 -2	2	過去の類似システムとの比較が文書化されていること。	青			30									
32	システムアーキテクチャー	4 -3 -1	3	必要となる宇宙機（衛星・探査機）システムについて、これまでにない特徴が認識されていること。	青			30	31								
53	ミッション運用アーキテクチャー	6 -2 -1	2	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現するために必要なミッション運用方針案が定義されていること	青			40									
56	ミッション運用アーキテクチャー	6 -3 -3	3	搭載機器と地上系との機能分担を検討すべき項目が明確化されていること。	青			41	53								
54	ミッション運用アーキテクチャー	6 -3 -1	3	ミッション運用方針案がミッションの科学目的からどのように要請されているか明確であること。	青			53									
79	技術要素開発	9 -2 -1	2	主要技術要素と、開発が必要な技術要素を同定する。	青			2	16	40	41	30	31				
62	技術リスクマネジメント計画	7 -2 -1	2	ミッションの科学目的達成のリスクを、実施する実験・観測・分析の獲得すべき性能、それを実現する方法・技術、宇宙機（衛星・探査機）システム、運用コンセプト・地上系のそれぞれの観点から検討し、リスク要因を見出すこと。	青			16	18	30	41	53					
63	技術リスクマネジメント計画	7 -2 -2	2	上記に基づいて、ミッションの主要なリスク要因を認識すること。	青			62									
72	技術マージン維持計画	8 -2 -1	2	リスク要因の検討において、技術的不確定性の大きな要素をリスト化する	青			62									
85	技術要素ヘリテージ	10 -2 -1	2	既存技術を活用する場合、そのヘリテージの元となる開発・プロジェクトとその中での既存技術の使用境界条件・プロジェクトでの実施状況などを明確化する。	青			31	41	53	62						
73	技術マージン維持計画	8 -2 -2	2	主要リスク、技術的不確定性の大きな要素について、十分なマージンを設定すること。	青			63	72								
74	技術マージン維持計画	8 -3 -1	3	上記(8-2-2)以外の項目については、JAXA標準のマージン設定があれば、それをマージンとすること。	青			73									
145	コスト	21 -2 -1	2	コストの規模を過去の類似ミッションから推定すること。	青			2	16	31	40	41	53				
92	システムズエンジニアリング	12 -2 -1	2	比較対象として検討すべき、コスト・リスク・programaticな課題が異なるミッション実現方法を複数考え、比較対象の第一次案として設定する。	青			41	2	18	53	62	63				
19	ミッションアーキテクチャー	3 -3 -1	3	コスト、リスク、programaticな課題が異なる複数のミッションアーキテクチャーを比較検討していること。	青			4	41								

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流										
					1a	1b	2a											
42	ミッション機器アーキテクチャー	5 -3 -1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などを実現する方法・技術について、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討し、科学目的の達成度とコスト・リスク・programaticな課題の関係性を把握すること。	青			19	74	3	92							
112	調達マネジメント	16 -3 -1	3	コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数のミッション実現方法それぞれについて、国内外機関の開発能力をサーベイすること。	青			3	19	33	42							
4	科学目的	1 -3 -2	3	コスト、リスク、programaticな課題が異なる複数のミッション実施方法を比較検討し、コスト、リスク、programaticな課題の大小とミッションで獲得する科学的価値の大きさの関係性を定量性をもって示すこと。	黄	青		3	92									
11	科学データ	2 -3 -1	3	複数のミッション実施方法の比較検討において、ミッションで得るデータの大きさ、データ転送レート、必要となる事後解析の大きさの違いが検討されていること。	黄	青		4	74	92								
33	システムアーキテクチャー	4 -3 -2	3	複数のミッション実施方法の比較検討において、システムアーキテクチャーについても複数検討し、コスト、リスク、programaticな課題の大小とミッションで獲得する科学的価値の大きさの関係性を定量性をもって示すこと。	黄	青		19	74	92								
55	ミッション運用アーキテクチャー	6 -3 -2	3	コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数のミッション運用方針案を検討し、科学目的の達成度との関係性を定量化すること。	黄	青		54	74	92								
80	技術要素開発	9 -3 -1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などについて、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討する際に、それぞれの場合の主要技術要素と開発が必要な技術要素を比較する。	黄	青		33	42	55	79							
81	技術要素開発	9 -4 -1	4	主要技術要素と、開発が必要な技術要素について、現在のTRL値の根拠を示すこと。	黄	黄	青	79	80									
86	技術要素ヘリテージ	10 -3 -1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などについて、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討する際に、それぞれの場合の既存技術の活用限界、リスク、利点を明確にし、比較する。	黄	青		33	42	55	79							
64	技術リスクマネジメント計画	7 -3 -1	3	コスト、リスク、programaticな課題が異なるミッション実施方法として検討した複数のミッションアーキテクチャー、複数のシステムアーキテクチャー、複数のミッション機器アーキテクチャー、複数のミッション運用アーキテクチャーについてリスクを比較すること。	黄	青		42										
122	実施体制	17 -3 -1	3	コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数のミッション実現方法それぞれについて、適切なパートナー機関の組み合わせを同定すること。	黄	青		112										

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流												
					1a	1b	2a													
146	コスト	21 -3 -1	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析などについて、コスト・リスク・programaticな課題が異なる複数の方法・技術を検討し、コストと得られるサイエンス成果の関係を整理すること。	黄	青		4	19	42	55									
93	システムズエンジニアリング	12 -3 -1	3	科学目的の達成度とコスト・リスク・programaticな課題の間のバランスにたつて、複数のミッションアーキテクチャー、システムアーキテクチャー、ミッション機器アーキテクチャー、ミッション運用アーキテクチャーについて、優れている点、劣っている点を総合的に判断する。	黄	青		3	19	42	33	55	80	86	64	122	146			
43	ミッション機器アーキテクチャー	5 -3 -2	3	検討結果に基づいて、科学目的の達成度とコスト・リスク・programaticな課題の間のバランスにたつて、実験・観測・分析などを実現する方法と技術について適切にベースラインを設定していること。	黄	青		33	42	93										
5	科学目的	1 -4 -1	4	該当分野の科学（理学および工学）の大目的から、提案ミッションで実施する実験・観測・分析などによりデータを取得し科学成果を得るまでの Traceability Matrix の第1版を作成すること。	黄	黄	青	4	19	42	55									
7	科学目的	1 -4 -3	4	提案ミッションで実施する実験・観測・分析などにおいて、最低限達成しなければならない科学outputが明確になっていること。（そのoutputが達成されなければ、ミッションを実施する意義がないoutputとその基準が明確であること。）	黄	黄	青	5												
94	システムズエンジニアリング	12 -3 -2	3	5-3-2 ベースラインアーキテクチャーを構成するサブシステムの間の要求の依存関係を分析し同定すること。	黄	青		3	11	30	33	42	43	55						
65	技術リスクマネジメント計画	7 -3 -2	3	ミッションの主要なリスク要因について、mitigation 戦略を見出すこと。	黄	青		63	64	4	11	19	33	42	55	92				
75	技術マージン維持計画	8 -3 -2	3	ミッションの科学目的を達成するために実施する実験・観測・分析から得られる成果を、不確定性を考慮したworst caseとbest caseそれぞれについて示すこと。	黄	青		43	74											
20	ミッションアーキテクチャー	3 -3 -2	3	宇宙環境が、ミッションの開発と実施に重大な影響を与えうるかどうかを定量的に検討していること。	黄	青		18	74	92										
104	planetary protection	14 -3 -1	3	Planetary protectionの実施方針の候補を評価する。	黄	青		103												
57	ミッション運用アーキテクチャー	6 -3 -4	3	新規に必要な地上系の機能・性能が明確化されていること。	黄	青		55												
99	打ち上げ手段	13 -3 -1	3	打ち上げ能力とフェアリング内の大きさについて、検討しているアーキテクチャーとの整合性を検討すること。	黄	青		3	19	33	42	43	55	89						
89	搭載機器リスト	11 -3 -1	3	実施する実験・観測・分析などの実現方法と技術ベースラインにたつて、ミッション機器アーキテクチャーを構成する要素について、質量見積もりを含むリストを作成する。	黄	青		43												

#	カテゴリー	ID	CML	要求	end of Pre-Phase A-			上流												
					1a	1b	2a													
107	検証計画	15 - 3 - 1	3	地上・軌道上を含めて特殊な検証活動が必要であるかどうかを同定する。	黄	青		42	43	33										
113	調達マネジメント	16 - 3 - 2	3	ベースラインとする実験・観測・分析などを実現する方法・技術の中で、プロジェクトの開発品とするか購入品とするかを検討する必要のある項目を同定する。	黄	青		43												
139	WBS	19 - 3 - 1	3	プロジェクト全体の最上位レベルから、ミッション装置単位までのWBSを作成すること。	黄	青		3	42	55										
147	コスト	21 - 3 - 2	3	ミッション系のサブシステムレベルまでのコスト評価を行う。	黄	青		43	145	146										
123	実施体制	17 - 4 - 1	4	PI, Science team, 主要なパートナー機関候補を決定する。	黄	黄	青	122												

信号 説明

青 要求を満たす

黄 要求達成のために検討すべき内容が認識されている

赤 未検討、もしくは解決困難な課題が認識されている

— 条件に該当しない